

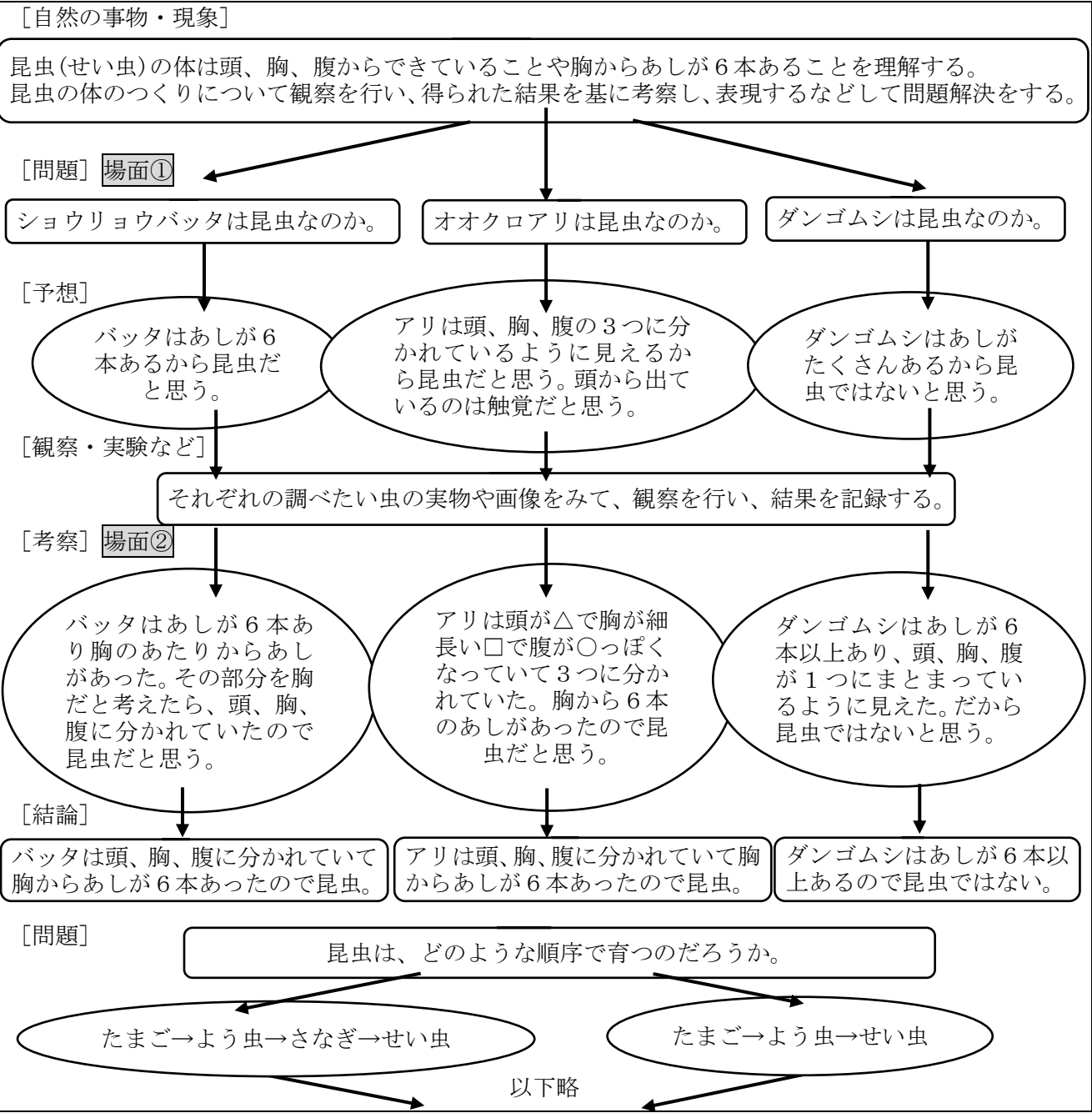
1 学年・単元名

第3学年 単元名「こん虫の育ち方」

2 単元学習計画

次	時 数	児童の学習活動
1	5	○チョウの卵や青虫、成虫の姿を比べて、気付いたことを話し合い、チョウの育ち方について姿を比べながら調べる。
2	2	◎チョウの体と他の虫の体を比べて、気付いたことを話し合い、いろいろな虫の体のつくりについてチョウの体のつくりと比べながら調べる。
3	3	○トンボやバッタの育ち方を、チョウの育ち方と比べながら調べる。

3 単元の展開について (TYPE 6・7 第2次2時目の実践)



4 児童の姿と指導上の留意点

(1) 場面①（個別最適に学んでいる姿）

学習活動	指導の留意点	児童の姿「ノート記述、発言、活動の姿など」
調べてみたい虫について、その虫は「昆虫か昆虫ではないか」を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を基にその虫が「昆虫か昆虫ではないか」を考えながら観察することを伝える。 ・実物を見ることができない場合は画像で検討してもよいことにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A児 「バッタはあしが6本あるから昆虫だと思う。」 ・ B児 「アリは頭、胸、腹の3つに分かれているように見えるから昆虫だと思う。頭から出ているのは触覚だと思う。」 ・ C児 「ダンゴムシはあしがたくさんあるから昆虫ではないと思う。」

(2) 場面②（協動的に学んでいる姿）

学習活動	指導の留意点	児童の姿「ノート記述、発言、活動の姿など」
観察した結果や考察を基に、それぞれが調べた虫が「昆虫か昆虫ではないか」を話し合い、検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習した昆虫であるための条件を確認する。 ・実証性、客観性を高めるために、意見交流を行う。 ・意見交流で気づいたこと全体に共有することで、さらに客観性を高め、結論に導くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ A児 「バッタはあしが6本あり胸のあたりからあしがあった。その部分を胸だと考えたら、頭、胸、腹に分かれていたので昆虫だと思う。」 ・ B児 「アリは頭が△で胸が細長い□で腹が○っぽくなっていて3つに分かれていた。胸から6本のあしがあったので昆虫だと思う。」 ・ C児 「ダンゴムシはあしが6本以上あり、頭、胸、腹が1つにまとまっているように見えた。だから昆虫ではないと思う。」

5 実践についての考察

- 児童が調べてみたい虫について、学習したことを基に昆虫かどうかを実際に観察したり図鑑や画像を見たりしながら考えた。昆虫(せい虫)の体は「頭・胸・腹の3つの部分でできていること」や「胸にあしが6本あること」など、その虫が「昆虫か昆虫ではないか」を主体的に考え、個別最適に学ぶことができた。
- 児童自ら調べた昆虫について、実物や画像を見せながら説明したり昆虫である2つの条件をもとにその虫が本当に昆虫なのかを協議したりするなどして、活発に考えを交流する姿や協動的に学ぶ姿が見られた。
- △観察する虫によっては実物を観察できず、画像のみで結果を得たり考察したりする児童がいた。今回は児童が調べたい虫についてそれぞれに調べたが、実物を観察するために予めいくつかの虫に指定をしてもよかった。

6 参考文献・URL

・ 鳴川哲也・塚田昭一編著 『小学校理科と個別最適な学び・協働的な学び』 令和6年 明治図書